

炭酸カリウム産業の現状

関税・外国為替等審議会
関税分科会特殊関税部会
経 済 産 業 省

炭酸カリウムの概要

炭酸カリウムとは

- 炭酸カリウムは、無機化学薬品として広範な製品に使用され、白い粉末状(固形品)と、水に溶解させた無色の液体品がある。
- 塩化カリウム(KCl)を溶解した水(H₂O)を電気分解し、水酸化カリウム※及び塩素、水素が発生。その水酸化カリウム水溶液を炭酸ガス(CO₂)と反応させると炭酸カリウムが生産される。
- 炭酸カリウムの国内生産者は2社のみ。

(※水酸化カリウムについては、平成28年に不当廉売関税課税措置が発動。令和2年7月、同措置延長申請があり現在調査中)

【炭酸カリウムの外観(固形品)】



(写真提供:カリ電解工業会)
※本邦産

炭酸カリウムの主な用途

- 炭酸カリウムは、ガラス原料に投入すると溶融性を高めると共に、透明性や光沢性等を高める効果があるため、高精細な高い品質レベルが要求される液晶パネル用のガラス基板など、ガラス類の製造原料として使用される。
- そのほか、中華麺に添加するかんすいの原料、チタン酸カリウム(主に自動車用のブレーキパットの原料)の原料、衣料用洗剤・食器用洗剤の原料、カリウム塩類の原料、医農薬の中間体原料など。

【液晶パネル用ガラス基板】



(写真提供:AGC(株))

炭酸カリウム産業の現状

炭酸カリウム産業の現状

- 炭酸カリウムの生産国は中国、韓国、米国など。韓国は世界最大の輸出国（令和元年約10.5万トン）。
- 我が国における韓国産炭酸カリウムの輸入量は、平成29年の4,918トンから令和元年には5,293トンに増加しており、国内需要量に占める市場占拠率を拡大。
- 我が国で炭酸カリウムを生産するのは2社のみ（AGC、日本曹達）であるが、市場全体が縮小傾向にあるなか、不当廉売された貨物が国産品のシェアを奪い、その輸入量を維持したため、国産品の国内販売量および市場占拠率は、調査対象期間（平成29年～令和元年）を通じ、減少傾向にある。
- 炭酸カリウムは幅広い用途に必要な基礎的な化学品であり、仮に不当廉売貨物の輸入が続けば、国内産業に必要な炭酸カリウムを輸入品に大きく依存することになり、輸入品による価格支配が生じる等川下産業を含めたサプライチェーン全体にも悪影響を及ぼすおそれがある。

まとめ

- 令和2年4月30日、カリ電解工業会（注）が韓国産の炭酸カリウムに対する不当廉売関税の課税を求める申請書を提出。
（注）国内で塩化カリウムの電解事業を行う企業が加盟する業界団体であり、加盟企業の炭酸カリウムの生産量の合計は、国内生産量の100%を占める。
- 国内生産者は、安価な韓国産炭酸カリウムの輸入を引き合いにされ製造費用の上昇分を価格に転嫁することができず、利潤が著しく悪化するなどの損害を被っている。上記産業の現状も踏まえれば、暫定措置の発動による早期保護の必要がある。